

地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター 第三期中期目標期間業務実績評価（概略）＜案＞

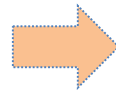
1 概要

地方独立行政法人は、地方独立行政法人法第28条第1項第3号に基づき、中期目標期間における業務の実績について、東京都地方独立行政法人評価委員会から意見聴取を行うものとする。

【評価の目的】

中期目標の変更を含めた、業務運営の改善等に資すること

業務実績を調査・分析し、中期目標の達成状況の全体について総合的に評価



実績見込みと実績との間に乖離がある場合にはその原因の分析を行い、中期目標の変更の必要性について検討

2 構成

※東京都の評価指針別表4より

評語
～特筆すべき業務の達成状況にある
～優れた業務の達成状況にある
～着実な業務の達成状況にある
～やや不十分な業務の達成状況にある
～不十分な業務の達成状況にある

(1) 全体評価

- 評語
項目別評価を基礎とし、政策上の要請等、法人全体の評価に影響を与える事象等を加味した評語を記載
- 高く評価すべき事項 及び 改善・充実を求める事項
全体評価の評語とともに、都民に分かりやすく提示するための記載事項。次期中期目標の変更等の対応が必要な事項があれば記載

(2) 項目別評価

- 原則として、S、A、B、C、Dの5段階の評語を付すことにより行うもので、「B」を標準とする。
- 年度評価及び前年度実施の見込評価を踏まえ総合的に行う。また、見込評価時に見込んだ期間終了時の業務実績と実際の業務実績に大きな乖離がある場合は、その理由を明確かつ具体的に記載する。

以下の表は、年度評価における各評語の項目数及び割合（各評語の項目数／全項目数）を計上したもの

評語	平成30年度		令和元年度		2年度		3年度		4年度		三期見込評価		三期期間評価	
	項目数	割合	項目数	割合	項目数	割合	項目数	割合	項目数	割合	項目数	割合	項目数	割合
【S】 中期目標の達成状況が極めて良好である	0	0%	2	10%	2	10%	1	5%	3	15%	2	10%	2	10%
【A】 中期目標の達成状況が良好である	10	50%	8	40%	11	55%	12	60%	11	55%	10	50%	10	50%
【B】 中期目標の達成状況が概ね良好である	10	50%	10	50%	7	35%	7	35%	6	30%	8	40%	8	40%
【C】 中期目標の達成状況がやや不十分である	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
【D】 中期目標の達成状況が不十分であり、法人の組織、業務等に見直しが必要である	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%

第三期中期目標期間業務実績評価（案）

全体評価

中期目標の達成に向け、『優れた業務の達成状況にある』

項目別評価：評価の推移

項 目		H30	R1	R2	R3	R4	見込評価	期間評価	法人期間評価
1 都民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置									
病院部門	[項目1] 血管病医療	A	A	A	A	A	A	A	A
	[項目2] 高齢者がん医療	A	A	A	A	A	A	A	A
	[項目3] 認知症医療	A	A	A	A	A	A	A	A
	[項目4] 生活機能の維持・回復のための医療	A	A	A	A	A	A	A	A
	[項目5] 医療の質の確保・向上	B	B	B	B	B	B	B	B
	[項目6] 救急医療	A	A	A	S	S	A	A	A
	[項目7] 地域連携の推進	B	B	B	B	B	B	B	A
	[項目8] 医療安全対策の徹底	B	B	B	B	B	B	B	A
研究部門	[項目9] 患者中心の医療の実践・患者サービスの向上	B	B	B	B	B	B	B	A
	[項目10] 高齢者に特有な疾患と老年症候群を克服するための研究	A	S	S	A	S	S	S	S
	[項目11] 高齢者の地域での生活を支える研究	A	A	A	A	A	A	A	A
	[項目12] 老年学研究におけるリーダーシップの発揮	A	A	A	A	A	A	A	A
	[項目13] 研究推進のための基盤強化と成果の還元	A	S	S	A	S	S	S	S
	[項目14] 医療と研究とが一体となった取組の推進	A	A	A	A	A	A	A	S
	[項目15] 高齢者の医療と介護を支える専門人材の育成	B	B	B	B	A	B	B	A
2 業務運営の改善及び効率化に関する事項									
経営部門	[項目16] 地方独立行政法人の特性を生かした業務の改善・効率化	B	B	A	B	B	B	B	A
	[項目17] 適切な法人運営を行うための体制の強化	B	B	B	B	B	B	B	B
3 財務内容の改善に関する事項									
経営部門	[項目18] 収入の確保	B	B	B	A	A	B	B	A
	[項目19] コスト管理の体制強化	B	B	A	A	A	A	A	A
4 [項目20] その他業務運営に関する重要事項（法人運営におけるリスク管理の強化）									
経営部門	[項目20] その他業務運営に関する重要事項（法人運営におけるリスク管理の強化）	B	B	A	A	A	A	A	A

項目別評価：【病院部門】高齢者の特性に配慮した医療の確立・提供と普及

項目1 血管病医療 【期間評価：A（見込評価：A）】

業務実績評価推移 ※（）は法人自己評価				
H30	R1	R2	R3	R4
A (A)	A (A)	A (S)	A (A)	A (A)

達成状況（概要） ○：優れた点、特色ある点、●：更なる充実が期待される点

- ハイブリット手術室を活用したステントグラフト内挿術や経カテーテル的大動脈弁置換術（TAVI/TAVR）等の高度かつ低侵襲な医療を提供した。
- 急性大動脈スーパーネットワークや東京都CCUネットワークへの参画による急性期血管病患者を積極的に受け入れた。
- 東京都脳卒中救急搬送体制に参画し、超急性期及び急性期の脳卒中治療を脳卒中ケアユニット（SCU）において積極的に実施した。

	H30	R1	R2	R3	R4
ICU/CCU稼働率	61.4%	60.7%	53.4%	65.0%	53.5%

※目標値：65%

	H30	R1	R2	R3	R4
SCU稼働率	80.4%	85.6%	90.1%	96.2%	93.9%

※目標値：85%

⇒ 血管病医療について、ハイブリッド手術室を活用した低侵襲な治療や多職種連携による早期リハビリテーションを着実に実施するとともに、急性期脳卒中患者に対してより適切な医療を提供するため、SCUの活用を推進する等、高齢者の多様な症例に対して低侵襲で効果的な治療の提供に努めたことは高く評価できる。

項目2 高齢者がん医療 【期間評価：A（見込評価：A）】

業務実績評価推移 ※（）は法人自己評価				
H30	R1	R2	R3	R4
A (A)	A (A)	A (A)	A (A)	A (A)

達成状況（概要） ○：優れた点、特色ある点、●：更なる充実が期待される点

- 高度な技術を活用した正確かつ低侵襲ながんの鑑別診断を推進したほか、早期の胃がんや大腸がん等に対し、低侵襲な医療を提供した。
- 化学療法や放射線治療等、手術以外の治療を着実に実施した。
- がん相談支援センターにおいて、院内外のがん患者や家族、地域住民、医療機関等からの生活全般にわたる様々ながん相談に対応した。

	H30	R1	R2	R3	R4
外来化学療法実施件数	1,159件	1,164件	1,148件	1,464件	1,447件

※目標値：1,000件

⇒ 低侵襲ながんの診断や高齢者の特性に合わせたがん医療の提供に取り組んだほか、がん相談支援センターにおいて、院内外のがん患者や家族等からの様々な相談に対応するなど、がん医療の充実を図ったことは高く評価できる。

項目3 認知症医療 【期間評価：A（見込評価：A）】

業務実績評価推移 ※（）は法人自己評価				
H30	R1	R2	R3	R4
A	A	A	A	A
(A)	(A)	(A)	(A)	(A)

達成状況（概要） ○：優れた点、特色ある点、●：更なる充実が期待される点

- MRI、SPECT及び各種PET検査等を実施し、症例の収集とデータ解析を行ったほか、アルツハイマー型認知症との区別が困難な認知症疾患の鑑別に対し技術開発を進めるなど、認知症の診断精度の向上に努めた。
- 認知症疾患医療センターとして、認知症疾患に関する専門医療相談や研修を実施するとともに、認知症支援コーディネーターと連携し、認知症の疑いのある高齢者に対してアウトリーチ活動を実施した。
- 「もの忘れ外来」や、「高齢者いきいき外来」において、認知症に関する専門的医療を適切に提供した。
- 認知症評価シート（DASC-21）を原則全入院患者に実施し、認知症の早期ケアに努めた。

	H30	R1	R2	R3	R4
専門医療相談件数	14,995件	15,340件	14,605件	14,359件	13,579件
訪問支援件数	7件	5件	3件	4件	4件

※目標値：専門医療相談件数10,000件、訪問支援件数5件

	H30	R1	R2	R3	R4
地域における医師等への研修会実施件数	14件	13件	13件	13件	14件

※目標値：6件

⇒ 認知症医療について、高度な技術を活用して早期診断の推進及び診断精度の向上を図るとともに、地域の人材育成や地域連携の推進に努め、地域における認知症対応力の向上に貢献していることは高く評価できる。

項目4 生活機能の維持・回復のための医療 【期間評価：A（見込評価：A）】

業務実績評価推移 ※（）は法人自己評価				
H30	R1	R2	R3	R4
A	A	A	A	A
(A)	(A)	(A)	(A)	(A)

達成状況（概要） ○：優れた点、特色ある点、●：更なる充実が期待される点

○フレイル外来を中心に、フレイル評価やフレイル発症を予防するための早期介入を実施した。

- 個々の患者の状態に応じた早期リハビリテーションの実施や多職種で構成する栄養サポートチーム（NST）による経口摂取支援等に取り組み、患者の早期回復や重症化予防に努めた。
- 高齢者総合機能評価（CGA）に基づき、入院時から退院後を見据えて個々の患者に適した退院支援を行い、早期退院及び退院後の生活の質（QOL）の確保につなげたほか、看護師の退院支援実践能力の向上に取り組んだ。
- 「治し支える医療」を通じて、フレイルに配慮した高齢者医療モデルの確立に取り組むとともに、その普及に努めた。

	H30	R1	R2	R3	R4
医療従事者向け講演会（回数）	4回	2回	2回	2回	2回

※目標値：3回

	H30	R1	R2	R3	R4
平均在院日数（病院全体）	12.9日	12.4日	12.4日	11.8日	12.0日

※目標値：12.2日

⇒ 急性期及び重症患者を積極的に受け入れ、適切な医療を提供するとともに、高齢者に特有な疾患に対応した専門外来の実施や入院時から退院を視野に入れた治療の提供と適切な退院支援を行うことで退院後の生活の質の確保に努めたこと、また、**高齢者医療モデルの確立・普及に努めた**ことは高く評価できる。

項目5 医療の質の確保・向上 【期間評価：B（見込評価：B）】

業務実績評価推移 ※ () は法人自己評価				
H30	R1	R2	R3	R4
B	B	B	B	B
(B)	(B)	(B)	(B)	(A)

達成状況（概要） ○：優れた点、特色ある点、●：更なる充実が期待される点

- 認定看護師の合格者や特定行為研修の修了者など、看護の質向上に貢献できる人材の育成に取り組んだ。
 - クリニカルパスの適用疾患の拡大に努めるとともに、DPCデータを用いて既存のクリニカルパスを分析・検証するなど、医療の標準化と効率化を推進した。
 - クリニカルパスにおけるバリエーションの継続的な分析・検証
- ⇒ 高齢者に特化した医療の提供に向けて、研修等の計画的な実施や専門資格の取得を推進した。
 また、高齢者の特性に配慮したクリニカルパスの分析や検証及び見直しを行うとともに、診療実績や臨床指標、DPCデータをホームページに公開するなど、センター医療の透明性の向上に努めている。
 引き続き、医療の質の確保・向上に努めてほしい。

項目6 救急医療 【期間評価：A（見込評価：A）】

業務実績評価推移 ※ () は法人自己評価				
H30	R1	R2	R3	R4
A	A	A	S	S
(A)	(A)	(A)	(S)	(S)

達成状況（概要） ○：優れた点、特色ある点、●：更なる充実が期待される点

- 二次救急医療機関及び東京都地域救急医療センターとして、地域の医療機関と連携しながら、救急患者の受入れを行った。
- 東京都が運営する新型コロナウイルス感染症患者の宿泊療養施設について、後方支援病院として急変患者の受入れに対応するなど、東京都の公的医療機関としての役割を果たした。
- 救急医療に携わる医師・看護師のレベルアップを図る取組として、感染予防対策研修や急変時対応訓練等を実施した。

	H30	R1	R2	R3	R4
救急患者受入れ数	9,782人	9,667人	8,683人	10,339人	10,336人

※目標値：10,000人以上

- ⇒ 地域の医療機関と連携した救急患者受入れ体制の強化や救急医療に関わる職員の育成などに取り組むことにより、二次救急医療機関及び東京都地域救急医療センターとして都民が安心できる救急医療を提供し、東京都の公的医療機関としての役割を果たしたことは高く評価できる。

項目7 地域連携の推進 【期間評価：B（見込評価：B）】

業務実績評価推移 ※（）は法人自己評価				
H30	R1	R2	R3	R4
B (A)	B (B)	B (A)	B (A)	B (A)

達成状況（概要） ○：優れた点、特色ある点、●：更なる充実が期待される点

- 連携医療機関等への定期的な訪問やかかりつけ医紹介窓口の運用等により紹介受入れの強化及び逆紹介を推進した。
- 医療関係者向けのセミナーや臨床病理検討会の開催、[地域医療連携システム（C@RNAシステム）](#)による初診web予約の開始等により、地域における疾病の早期発見・早期治療に向けて地域連携を強化した。
- 高齢診療科を開設し、多職種により老年症候群に対する精査加療、フレイル予防対策に取り組むとともに、地域の医療機関や訪問看護師との連携を強化し、退院後も継続して質の高い医療、介護を受けられる環境を整備した。
- [危機管理マニュアルに基づいた災害対策本部の運営訓練や、東京都及び板橋区との通信訓練を定期的実施するなど、災害拠点病院として必要な運営体制の確保に努めた。](#)

●地域の医療機関との更なる連携や紹介率の向上

	H30	R1	R2	R3	R4
紹介率	70.0%	65.2%	69.1%	70.7%	72.0%

※目標値：80%

	H30	R1	R2	R3	R4
逆紹介率	76.1%	75.7%	77.7%	82.2%	88.9%

※目標値：75%

- ⇒ かかりつけ医紹介窓口の運用等により、[紹介・逆紹介を推進するとともに、高齢診療科の開設や地域医療連携システムによる初診WEB予約開始などにより、地域連携の強化に取り組んだほか、災害拠点病院としての運営体制の確保に努めたことは評価できる。](#)引き続き、地域の医療機関等との更なる連携や紹介率の向上に向けた取組の推進が求められる。

項目8 医療安全対策の徹底 【期間評価：B（見込評価：B）】

業務実績評価推移 ※（）は法人自己評価				
H30	R1	R2	R3	R4
B (A)	B (A)	B (A)	B (A)	B (A)

達成状況（概要） ○：優れた点、特色ある点、●：更なる充実が期待される点

- 医療安全管理委員会を中心として、標準的な医療から逸脱した事例の収集や情報共有、分析を行うとともに、発生事例を基にした事例検討会を実施するなど、医療安全管理体制を更に強化した。
- 転倒ハイリスク状態と評価された患者について、転倒転落カンファレンスシートで評価や対策の立案を実施した。
- 感染防止対策チーム（ICT）による病棟ラウンドの確実な実施により感染防止対策を徹底するとともに、地域の医療機関と感染防止対策連携カンファレンスを定期的実施するなど、地域全体で感染症防止対策に取り組んだ。

●医療安全対策の更なる強化

	H30	R1	R2	R3	R4
院内感染対策研修会開催の参加率	94.1%	94.6%	100.0%	100.0%	100.0%

※目標値：100%

	H30	R1	R2	R3	R4
針刺し事故発生件数	31件	42件	23件	29件	30件
転倒・転落事故発生率	0.35%	0.36%	0.34%	0.37%	0.40%

※目標値：針刺し事故発生件数30件以下、転倒・転落事故発生率0.40%以下

- ⇒ [医療安全管理委員会を中心とした医療安全管理体制を確保したほか、新型コロナウイルス感染症本部会議を継続し、病院一丸となって新型コロナ対策に尽力したことは評価できる。](#)引き続き、医療安全対策の強化に努めてほしい。

項目9 患者中心の医療の実践・患者サービスの向上 【期間評価：B（見込評価：B）】

業務実績評価推移 ※ () は法人自己評価				
H30	R1	R2	R3	R4
B	B	B	B	B
(B)	(B)	(A)	(A)	(A)

達成状況（概要） ○：優れた点、特色ある点、●：更なる充実が期待される点

- セカンドオピニオン外来について広報活動を行い、患者やその家族が治療の選択・決定を医療者とともに主体的に行うことができるよう支援している。
- 新型コロナウイルス流行下における、面会が必要不可欠な症例に対する、PCR検査等後の最大限の直接面会やオンライン面会の実施、ご意見箱に寄せられた要望を踏まえた改善策の実施など、患者ニーズに対して迅速な対応に努めた。
- 患者満足度の更なる向上を目指した患者中心の医療の実践と取組の実施

	H30	R1	R2	R3	R4
入院満足度	91%	89%	90%	89%	86%
外来満足度	81%	83%	87%	-	-

※令和3～4年度は、コロナ禍のため外来満足度調査を実施せず
 ※目標値：入院満足度91%、外来満足度84%

- ⇒ **新型コロナウイルス感染症流行下におけるPCR検査や抗原検査後の直接面会やオンライン面会の実施、患者の意見等に対する環境改善への取組など、患者サービスの向上に努めたことは評価できる。**
 引き続き、患者満足度の向上を目指し、患者中心の医療の実践と取組状況の検証に取り組んでほしい。

項目別評価：【研究部門】高齢者の健康長寿と生活の質の向上を目指す研究

項目10 高齢者に特有な疾患と老年症候群を克服するための研究 【期間評価：S（見込評価：S）】

業務実績評価推移 ※（）は法人自己評価				
H30	R1	R2	R3	R4
A	S	S	A	S
(A)	(A)	(S)	(S)	(S)

達成状況（概要） ○：優れた点、特色ある点、●：更なる充実が期待される点

- 世界で初めて、老化細胞を誘導することで、膵臓がんの増殖と浸潤を抑えることが可能であることを明らかにするとともに、老化細胞死誘導薬の併用による画期的な治療法の可能性を示した。
 - 咀嚼により大脳皮質の血流量が増加し、認知機能の向上などの作用を果たすこと、また、咀嚼をイメージするだけでも同様の効果が得られることを明らかにした。
 - 筋間質の間葉系前駆細胞の加齢変化がサルコペニア発症の一因となることを明らかにし、今後のサルコペニアの予防・治療法開発に貢献した。
- ⇒ 高齢者に特有な疾患と老年症候群を克服するため、特に高齢者がんの中でも膵臓がんに有効な新たな治療法を発見したほか、哺乳動物で新規に発見された糖鎖修飾分子が、筋疾患だけでなく他の老化関連疾患に関与する可能性を見だし、老化関連疾患に対して知見を与える成果を出したことは大いに評価できる。

項目11 高齢者の地域での生活を支える研究 【期間評価：A（見込評価：A）】

業務実績評価推移 ※（）は法人自己評価				
H30	R1	R2	R3	R4
A	A	A	A	A
(A)	(A)	(A)	(A)	(A)

達成状況（概要） ○：優れた点、特色ある点、●：更なる充実が期待される点

- 大都市における認知症支援体制のモデル開発に向けて、住民や行政との信頼関係の醸成、評価・検証等を行い、地域ケアモデルの構築及びそれに続く社会実装の知見を得た。
 - 全国高齢者パネル調査のデータを用いて、地域在住の日本人高齢者全体のフレイル割合を初めて明らかにし、フレイル予防に関する施策の評価や研究の基準値等となり得る知見を示した。
 - 独居高齢者におけるリスク要因について調査を行ったほか、新型コロナ流行下における社会的孤立について調査を行うなど、孤独・孤立に対する知見を示した。
 - レセプトデータを用いた分析により、介護保険施設における医療専門職配置による再入院の予防効果、多疾患併存による要介護化・死亡リスクの増加、歯科受診による全身疾患の急性発症リスクの予防効果及び退院直後からのリハサービス利用による要介護重度化の予防効果を明らかにした。
- ⇒ 高齢者の地域での生活を支える研究として、高島平地区を拠点として総合的研究を行い、国際誌への発表を行うなど地域ケアモデルの構築に貢献したほか、フレイル予防や高齢者の就労促進に係る研究を推進してきたことは高く評価できる。

項目12 老年学研究におけるリーダーシップの発揮 【期間評価：A（見込評価：A）】

達成状況（概要） ○：優れた点、特色ある点、●：更なる充実が期待される点

業務実績評価推移 ※ () は法人自己評価				
H30	R1	R2	R3	R4
A (B)	A (B)	A (A)	A (A)	A (A)

- 高齢者ブレインバンクの新規登録を着実に進め国内外の機関とネットワークを構築し、病理組織リソースセンターとして国内外の研究の発展に貢献した。
- 次世代医用技術として期待されるAI・ICT、ロボット技術などの社会実装に向けた研究開発において、「認知症未来社会創造センター」や、日本医師会と連携した「AIホスピタルによる高度診断・治療システム」などのプロジェクトを新規に開始し、老年学研究においてリーダーシップを発揮している。
- 米国老年学会、日本老年医学会をはじめ、国内外の学会に積極的に参加し、研究成果の発表を着実に実施した。

	H30	R1	R2	R3	R4
論文発表数	739件	672件	762件	868件	753件
学会発表数	1,707件	1,578件	1,095件	1,266件	1,436件

※目標値：論文発表数600件、学会発表数1,200件

	H30	R1	R2	R3	R4
科研費新規採択率	28.8%	37.9%	31.9%	37.6%	47.6%

※目標値：33%

⇒ ブレインバンク生前登録例の中で、アミロイドPETと病理対比について実証検証を行い、学会発表して学会賞を授与されたほか、日本医師会と連携し新規プロジェクトを開始する、所内研究討論会等の開催により若手研究者の育成を図るなど、老年学研究においてリーダーシップを発揮してきたことは高く評価できる。

項目13 研究推進のための基盤強化と成果の還元 【期間評価：S（見込評価：S）】

業務実績評価推移 ※（）は法人自己評価				
H30	R1	R2	R3	R4
A	S	S	A	S
(S)	(S)	(S)	(S)	(S)

達成状況（概要） ○：優れた点、特色ある点、●：更なる充実が期待される点

- 研究全般を推進する基盤を強化するために研究支援組織「健康長寿イノベーションセンター(HAIC)」を立ち上げ、保有する知的財産の管理・活用のため、新たにクラウド型特許データベースを活用した知的財産管理業務委託を開始する等、センター全体の良質な知財創出を継続的に推進したことで、特許新規申請件数や知財収入の実績を伸ばした。また、ワンストップ窓口を新設し、企業・大学・自治体等との連携の際、研究立案の早期から契約相談を受け付け、秘密情報や研究成果の保護など支援体制を整備
- 外部評価委員会を通じて各研究成果や実現可能性等について評価を受けることで、より効率的・効果的な研究活動を推進し、外部資金獲得金額を伸ばした。
- 厚生労働大臣の認定を受けた臨床研究審査委員会を設置し、都立病院等からも審査業務を受託するなど、臨床研究に対する信頼を確保した。
- 定期的な講演会の開催や研究所NEWSの発行、積極的なプレス発表、Youtube動画などにより、研究所の研究成果や取組について都民へ普及した。

	H30	R1	R2	R3	R4
特許新規申請件数	6件	13件	15件	17件	21件

※目標値：10件

	H30	R1	R2	R3	R4
老年学・老年医学公開講座	4回/2,828人	4回/3,499人	0回/0人	3回/12,906人	4回/25,271人
科学技術週間参加行事	1回/330人	1回/346人	0回/0人	1回/13,000人	1回/4,700人

※令和3～4年度はYouTube動画の再生回数

※目標値：老年学・老年医学公開講座4回、科学技術週間参加行事1回

⇒ 研究推進のための基盤強化と成果の還元のため、設置された臨床研究審査委員会が迅速審査可能になるよう厚生労働省から認定を受けたほか、ワンストップ窓口の新設により、企業・大学・自治体等との連携の際、研究立案の早期から契約相談を受け付け、秘密情報や研究成果の保護など支援体制を整備したことは高く評価できる。

項目14 医療と研究が一体となった取組の推進 【期間評価：A（見込評価：A）】

達成状況（概要） ○：優れた点、特色ある点、●：更なる充実が期待される点

業務実績評価推移 ※（）は法人自己評価				
H30	R1	R2	R3	R4
A	A	A	A	A
(A)	(A)	(S)	(S)	(S)

- 「健康長寿イノベーションセンター(HAIC)」を中心として新たな治療法の開発や実用化が見込まれる研究に対して資金及び研究進捗、出口戦略コンサルテーションを行い、実用化研究を重点支援するとともに、第三期中期計画に掲げる老年学・老年医学に係る高い研究成果の創出を支援した。
- 認知症高齢者等を地域で支える支援体制を構築するため、認知症サポート医や看護師等を対象とした研修を実施するほか区市町村、島しょ地域や檜原村への研修、活動支援も実施した。
- 令和2年度に創設した「認知症未来社会創造センター(IRIDE)」において、将来的な社会還元を見据えた取組として、センターが保有するビッグデータを活用した認知症研究のプラットフォーム「TOKYO健康長寿DB」の構築や、AIによる認知症診断支援システム等の開発に関する研究を実施した。
- 東京都介護予防・フレイル予防推進支援センター事業として、介護予防に加えてフレイル予防についても、普及啓発や人材育成を促進するとともに、フレイル外来において地域の総合的なフレイル対策を立てたことで、東京都の介護予防施策に貢献した。

	H30	R1	R2	R3	R4
TOBIRA研究発表数	10回	11回	0回	0回	15回

※目標値：（講演・ポスター発表）10件

	H30	R1	R2	R3	R4
認知症支援推進センターの研修開催件数	15件	15件	15件	17件	16件
（人数）	1,999人	1,798人	1,539人	1,659人	2,018人

※目標値：17件

⇒ コロナ禍においても、TOBIRAを活用し柔軟な研究開発を行い実用化に貢献したこと、IRIDEを活用して各種取組を実施し、認知症支援の推進をしたこと、介護予防に加えてフレイル予防についても、普及啓発や人材育成を促進し、区市町村の活動支援を行うとともに、都の介護予防策に貢献したことは高く評価できる。

項目別評価：【経営部門】人材育成・業務運営・財務・その他業務運営に関する重要事項

項目15 高齢者の医療と介護を支える専門人材の育成 【期間評価：B（見込評価：B）】

業務実績評価推移 ※ () は法人自己評価				
H30	R1	R2	R3	R4
B	B	B	B	A
(A)	(A)	(A)	(A)	(A)

達成状況（概要） ○：優れた点、特色ある点、●：更なる充実が期待される点

- センターの認定看護師・専門看護師による意見交換会の開催等を通して、地域の訪問看護師との連携を強化したほか、[東京都医師会や東京都栄養士会等と連携し、フレイルサポート医や栄養士を育成するための研修を実施](#)するなど、地域における人材育成に貢献した。
- 医師や研究員の大学等への派遣、医学生・研修医を対象とした高齢医学セミナーの開催、連携大学院や他大学等からの学生の受入れ等を通して、次世代の高齢者医療・研究を担う人材の育成に貢献した。
- 地域における医療・介護人材の継続的な育成
 - ⇒ 地域の訪問看護師等への支援を通じて地域の専門人材の育成に取り組むとともに、研修生や学生の受入れなどを行い、今後の高齢者医療・研究を担う人材の育成に貢献したことは評価できる。
 - 今後も、地域の医療・介護人材の育成に更に取り組んでほしい。

項目16 地方独立行政法人の特性を活かした業務の改善・効率化 【期間評価：B（見込評価：B）】

業務実績評価推移 ※ () は法人自己評価				
H30	R1	R2	R3	R4
B	B	A	B	B
(A)	(B)	(A)	(A)	(A)

達成状況（概要） ○：優れた点、特色ある点、●：更なる充実が期待される点

- 医療情報戦略課を中心として、診療情報や財務情報等のデータに基づく経営分析を行い、[平均在院日数の適正化や病床利用率の向上、外部研究員の受入れ等](#)、様々な経営戦略を検討した。
- 職員提案による新型コロナウイルス感染症拡大防止やコロナ禍での経営改善に向けた取組を実施した。
- インターネット予約サービスの開始や医師事務作業補助者の積極的な活用により、患者サービスの向上、医師の事務負担軽減を図った。
- 看護師に加えて、事務・メディカルについても、専門資格手当や指導手当、研修講師手当などの特別対策手当を新たに創設するなど、人材育成・定着対策に取り組んだ。
- 地方独立行政法人としての自律性を発揮した効率的・効果的業務の更なる推進

	H30	R1	R2	R3	R4
職員提案制度提案数	20件	14件	5件	16件	16件
職員提案制度取組数	2件	3件	5件	5件	5件

※目標値：取組数5件

	H30	R1	R2	R3	R4
有給取得平均日数	8.3日	9.0日	11.3日	12.6日	12.5日

※目標値：取組数5件

- ⇒ 今後の病院経営を見据えた経営戦略の検討に取り組むとともに、職員提案制度の活用やインターネット予約サービスの開始、医師事務作業補助者の積極的な活用等により、業務の改善・効率化と患者サービスの向上の両立を推進したことは評価できる。
- 今後も更なる業務の改善・効率化に取り組んでほしい。

項目17 適切な法人運営を行うための体制の強化 【期間評価：B（見込評価：B）】

業務実績評価推移 ※（）は法人自己評価				
H30	R1	R2	R3	R4
B	B	B	B	B
(B)	(B)	(B)	(B)	(B)

達成状況（概要） ○：優れた点、特色ある点、●：更なる充実が期待される点

- 法人の業務活動全般にわたって内部監査を行うとともに、監事、会計監査人と連携し、指摘された事項や改善を求められた事項に適切に対応するなど、法人運営の透明性及び健全性の確保に努めた。
 - 全職員を対象に、医療法をはじめとする関係法令や高齢者医療及び研究に携わる者の行動規範と倫理に係るコンプライアンス研修を実施した。
 - 法人において雇用した保険指導の専門家の指導により、職員に対するカルテ記載内容の突合作業訓練を実施するなど、適切な保険請求に向けた取組を強化した。
 - コンプライアンス研修の着実な実施等による更なる内部統制の強化
- ⇒ 適切な保険請求に向けた取組や研究活動の不正防止に向けた取組の推進など、職員の法令遵守・倫理の徹底に取り組んだことは評価できる。
引き続き、コンプライアンス研修の着実な実施など、内部統制の強化に向け、継続した取組が求められる。

項目18 収入の確保 【期間評価：B（見込評価：B）】

業務実績評価推移 ※（）は法人自己評価				
H30	R1	R2	R3	R4
B	B	B	A	A
(B)	(B)	(B)	(S)	(S)

達成状況（概要） ○：優れた点、特色ある点、●：更なる充実が期待される点

- 診療報酬改定に伴うクリニカルパスの見直しや病床の一元管理等を通じた救急患者の積極的な受入れや[初診web予約の積極的な活用による紹介患者の獲得等](#)により医業収入の確保を図った。
- 新たな施設基準の取得のほか、施設基準等管理部会を新設し、施設基準に関する要件等を組織的かつ定期的に確認するなど、管理体制強化に取り組んだ。
- 文部科学省や厚生労働省などの競争的資金への応募や健康長寿イノベーションセンター（HAIC）を中心とした共同研究・受託研究を推進し、外部研究資金の積極的な獲得に繋がったほか、研究成果の実用化に向けた「職務発明審査会」を開催し、新規特許出願につなげた。
- 医業収支の改善に向けた医業収入のより一層の確保

	H30	R1	R2	R3	R4
新規入院患者数	12,605人	12,470人	10,552人	11,337人	10,941人
初診料算定患者数	16,030人	16,162人	15,231人	17,873人	18,387人
紹介患者数	12,936人	13,913人	13,153人	13,731人	15,129人
病床利用率（病院全体）	87.2%	83.0%	70.4%	72.1%	70.9%

※目標値：新規入院患者数11,600人、初診料算定患者数16,700人、紹介患者数14,300人、病床利用率76.0%

	H30	R1	R2	R3	R4
査定率	0.33%	0.37%	0.27%	0.26%	0.32%
未収金率	0.76%	0.66%	1.07%	0.96%	0.67%

※目標値：査定率0.3%以下、未収金率1.0%以下

	H30	R1	R2	R3	R4
外部研究資金総獲得件数	270件	270件	310件	318件	349件
競争的外部資金獲得金額（一人あたり）	8,471千円	8,351千円	8,948千円	8,977千円	9,254千円
共同・受託研究等実施件数	56件	59件	61件	70件	91件
科研費新規採択率【再掲】	35.7%	28.8%	37.9%	31.9%	47.6%

※目標値：外部研究資金総獲得件数230件、競争的外部資金獲得金額（一人あたり）6,500千円、共同・受託研究等実施件数65件、科研費新規採択率33%

	H30	R1	R2	R3	R4
経常収支比率	97.4%	94.7%	100.9%	116.4%	108.5%
医業収支比率	82.0%	79.3%	74.6%	82.8%	81.4%

※目標値：経常収支比率96.7%、医業収支比率85.1%

- ⇒ 診療報酬改定に伴うクリニカルパスの見直しや新たな施設基準の取得、外部研究資金の積極的な獲得など、収入の確保に努めたことは評価できる。
引き続き、医業収入の一層の確保が求められる。

項目19 コスト管理の体制強化 【期間評価：A（見込評価：A）】

業務実績評価推移 ※ () は法人自己評価				
H30	R1	R2	R3	R4
B (B)	B (B)	A (A)	A (A)	A (A)

達成状況（概要） ○：優れた点、特色ある点、●：更なる充実が期待される点

- 診療材料及び医薬品について、ベンチマークシステムを活用し納入業者と価格交渉を行い材料費等を抑制するとともに、また、大型の委託契約について業務内容の見直しを進め、委託費等のコスト管理を推進した。
- 病院運営会議等において、診療科別原価計算結果を定期報告し、各診療科に収支指標を継続発信するとともに、経営戦略会議において法人の経営実績や課題を共有しコスト管理や収益性の意識向上を図った。あわせて、各科ヒアリングを通じて各診療科が収支改善へ行動目標を作成し、収益の改善に向けた取組を推進した。

	H30	R1	R2	R3	R4
材料費対医業収益比率	29.1%	30.8%	31.9%	29.9%	30.8%

※目標値：30.3%

	H30	R1	R2	R3	R4
後発医薬品使用割合	87.0%	87.8%	84.8%	88.0%	87.0%

※目標値：85%

- ⇒ 材料費、医薬品費及び委託費等の見直しを図り、コスト管理を推進したほか、診療科別原価計算の分析等により、経営意識向上と改善活動を推進し、収支改善に努めたことは高く評価できる。

項目20 法人運営におけるリスク管理の強化 【期間評価：A（見込評価：A）】

業務実績評価推移 ※ () は法人自己評価				
H30	R1	R2	R3	R4
B (B)	B (B)	A (S)	A (S)	A (S)

達成状況（概要） ○：優れた点、特色ある点、●：更なる充実が期待される点

- サイバー攻撃への対策を強化するとともに、全職員を対象としたeラーニングによる情報セキュリティ研修・個人情報保護研修を実施し、情報セキュリティに対する職員の意識向上を図った。
- 職員の健康管理及び安全な職場環境の確保のため、ストレスチェックやハラスメント防止対策を継続実施し、事務部門のノー残業デーなどの取組も実施した。
- 災害拠点病院として、地域の関係機関との各種訓練や備蓄資機材の適正な維持管理を実施した。
- 新型コロナウイルス感染症入院重点医療機関として及び新型コロナ疑い救急患者の東京ルール参画医療機関として新型コロナ患者の積極的な受け入れを行うとともに、東京都が設置する宿泊療養施設や大規模ワクチン接種会場等へセンターの医療従事者を派遣するなど、公的医療機関としての役割を果たした。

	H30	R1	R2	R3	R4
情報セキュリティ及び個人情報保護研修参加率	70.0%	93.0%	100.0%	100.0%	100.0%

※目標値：100%

- ⇒ 情報セキュリティや個人情報保護等に係る取組を実施したほか、職員へのサポート体制の充実を図り、職員の健康と良好な職場環境の確保に努めた。また、危機管理体制の確保やコロナ禍における対応等により公的医療機関としての役割を果たしたことは高く評価できる。